

2024年度第2回
「自然科学系アーカイブズ研究会」
プログラム

rev. 2025/02/06 14:30

プログラムは変更があれば随時アップデートしますのでホームページ
https://www.nifs.ac.jp/archives/w_pdf/20250311.html
を確認してください。

3月11日 火曜日

バス：多治見駅 13:10 発 — NIFS 13:30 着

13:20 ~ 13:40 [オンライン参加者のための接続テスト]

[開始]

13:45 ~ 13:50 **あいさつ**：藤堂 泰（NIFS 副所長）

13:50 ~ 14:00 **研究会の進め方について**：村上 泉（核融合研・核融合アーカイブ）

企画講演

14:00 ~ 14:10 高岩 義信（KEK・史料室）

『研究会の企画講演の趣旨説明』

概要：近現代の科学史の研究において学問自体の発展史と並んで研究者の組織化が対象となることがあるが、そのような組織として「学会」がある。学会によってはそれが対象とする研究分野の歴史に関心をもって研究資料に注目する例がある。また学会それ自体の歴史的経緯も研究分野の発展と無関係ではないが、その組織の記録についてのアーカイブ的な取扱いはケースバイケースなのではなかろうか。今回はその例として、また他の学会等の団体の歴史資料について考察する参考になると思われるので、日本物理学会のケースを紹介してもらう。なお、日本物理学会は2027年にその前身から数えて150周年を迎える。

14:10 ~ 14:50

有賀 暢迪（一橋大学大学院・言語社会研究科および日本物理学会・物理学史資料委員会委員長）

『物理学会の周年記念事業と物理学史資料委員会』

概要：日本物理学会は2027年に創立150周年を迎える。この機にさまざまな事業が計画されているが、その一部は学会の物理学史資料委員会が発案ないし推進している。周年事業が資料の収集や保管のきっかけとなることは多いが、資料委員会そのものも、学会創立100周年（1977年）の記念事業が契機となって設置された委員会である。本講演では、50年前の記念事業から資料委員会の設立へ至った過程を振り返ることを通じて、このたびの150周年記念事業の方向性について考えてみたい。

一般募集講演

14:50 ~ 15:10 菊谷 英司（KEK）

『KEK 史料室の「歴史資料等保有施設」指定の途中経過報告』

概要：KEK 史料室は「公文書管理法」の概念にある「歴史資料等保有施設」の指定を受ける方針です。昨年後半に実際に内閣府に書類を提出しました。その経過報告をします。

休憩（宿泊手続き等）

15:40～16:00 田中 花音（京都大学・大学院地球環境学舎）

オンライン

『「京大におけるダーヴィン」駒井卓資料のアーカイブ実践』

概要：京都大学の生物学者・駒井卓が遺した資料は自宅や博物館など各地に点在し、一部は適切な保存がされないまま劣化の一途を辿っている。駒井のような自然科学分野の研究者資料の殆どは一元的な整理がされていないのが現状であり、利活用されずその潜在的価値を示せないまま忘れ去られている。本プロジェクトでは、駒井の資料の一元的なデジタルアーカイブを行い、研究者資料における適切なアーカイブズ手法の確立を目指している。これまでの研究の中で発見した学術的に貴重な資料や、公開予定の成果物などを紹介したい。

16:00～16:20 雨宮 高久（日本大学・理工学部）

『プラズマ・核融合研究に関するオーラル・ヒストリーの収集』

概要：本発表では、核融合科学研究所核融合アーカイブ室と日本大学理工学部物理学科科学史研究室でこれまでに実施してきたプラズマ・核融合研究者へのインタビュー調査の現状と課題に加えて、今後計画している研究者へのインタビュー調査の概要（特に、質問状作成の段階で行った文献史料調査の結果）について報告する。なお、本発表は令和6年度核融合科学研究所・一般共同研究・核融合科学学際研究「プラズマ・核融合研究に関するオーラル・ヒストリーの収集」（研究コード：NIFS24KIIQ006）および令和6年度科学研究費補助事業・若手研究「「核融合懇談会」から探る「研究者組織」発足のための要因に関する研究」（研究課題／領域番号：22K13030）の一環として行った研究成果に基づくものである。

16:20～16:40 中西 秀哉（核融合科学研究所・可知化センシングユニット）

『実験装置の3-Dデジタルアーカイブへの取り組み』

概要：核融合実験のデジタルツイン化も視野に含め、実験装置など有体物の3-Dデジタルアーカイブ作成と利活用に取り組んでいる。

休憩（宿泊手続き等）

17:00～19:00 懇親会：

バス：NIFS 19:23 発 多治見駅 19:40 着

最終：NIFS 20:59 発 多治見駅 21:18 着

3月12日 水曜日

バス：多治見駅 8:30 発 — NIFS 8:50 着

企画講演

9:20～10:00 岡本 拓司（東京大学・総合文化研究科および日本物理学会・150周年記念事業担当理事）

オンライン

『日本物理学会史制作とその資料、および2025-2027年周年記念事業について』

概要：日本物理学会の起源は1877年の東京数学会社創立に遡る。百周年の1977年にはこれを記念する催しがあったが、学会の歴史が編まれることはなかった。百五十周年の2027年には、これまで存在しなかった学会史を制作する企画が立てられ、進行しているが、その過程で、学会史制作が試みられなかった理由として、機関誌の記述の形態など、資料上の問題があることが想定されるようになった。こうした状況の概要と、百五十周年を含む2025年から2027年にかけての記念事業について紹介を行う。

一般募集講演

10:00～10:20 千葉 庫三（東京科学大学／国立天文台）

『「戦後日本の大型望遠鏡建設の歴史」研究における史資料の利活用について』

概要：筆者は「戦後日本の大型望遠鏡建設の歴史」の研究題目で、戦後日本における現代観測天文学の発展を、光学・電波天文学の3つの大型望遠鏡（野辺山宇宙電波観測所、すばる望遠鏡、アタカマ大型ミリ波サブミリ波干渉計（ALMA））の建設・運用を中心に分析した。研究を進めるにあたって、日本学術会議資料、研究当事者資料、米欧天文台アーカイブ資料、自主的研究者集団会報・ニュース、オーラル・ヒストリー等を利活用した。一つの事象について、複数の史資料を組み合わせることにより、事象を立体的に捉えることができた例などを報告する。

10:20～10:40 柳澤顕史（国立天文台）

『国立天文台アーカイブ室のステータス報告』

概要：国立天文台アーカイブ室が発足した。最初の業務は写真乾板の整理と公開である。上海天文台との共同研究として国立天文台が所有している写真乾板の電子化の現状について報告する。

休憩

11:00～11:20 加藤茂孝（東京慈恵会医科大学）

『なぜ科学成果が尊重されないのか？：科学成果の不安や信仰による否定の背景』

概要：科学成果は、客観性を重要視する。物理や化学分野では、市民にも受け入れられている。ところが生命科学分野では、市民への受け入れには困難が伴う事がある。特に市民の側に不安や信仰が存在すると困難が顕著になる。具体的には、ワクチンと進化について著しい。科学成果を受け入れない背景を考察して置きたい。

11:20～11:40 西谷 正（なし）

『武谷三男とブラジル』

概要：武谷は、1958年、61年、その後2回ブラジルを訪れ、ブラジルの物理学界との交流に貢献した。その史料が少し坂田記念史料室、武谷三男史料室に残されている。それらの史料をもとに武谷の活動を紹介する。

11:40～12:00 平田 光司、高岩義信（KEK・加速器研究施設、KEK・史料室）

『名古屋大学「重イオン研究所」について』

概要：1980年ころ名古屋大学で計画されていた「重イオン研究所」はプラズマ研究所の将来計画とも関わる大型計画であったが、東京大学原子核研究所の将来計画としてのNUMATRONとの合体も検討された。当時の核物理、核融合科学の動向を見る上で興味深い歴史として紹介する。

昼食

13:20～13:40 中山 正敏（九州大学・理学部）

『半導体研究史資料』

概要：日本の半導体研究史資料の現状を紹介する。先行研究、聞き書きなどがある。

13:40 ~ 14:00 菱木 風花（一橋大学・大学院言語社会研究科）

『物理学者資料としての核融合アーカイブ室所蔵「大河千弘資料」における理論研究プロセスの
解明（仮題）』

概要：本発表は2024年度共同研究「日本の核融合研究に関する歴史資料の収集、整理、および登録」（代表者：村上 上泉）として進めていた核融合アーカイブ室所蔵の物理学者資料「大河千弘資料」の収集・整理に関する調査研究に基づいて行った、日本の科学史研究の視点による研究資料としての性格分析に関する進捗報告を行うものである。本研究では、大河資料のなかでも核融合分野の基礎となる理論的検討が行われている手書きの資料に着目した。研究段階において見られる検討が如何にして論文等の研究成果へ至ったかという理論研究のプロセスの解明については、科学史研究においても課題の多いテーマであるが、本研究によって大河資料はその解明に繋がる重要な性格を備えたアーカイブズであることを明らかにした。本発表においては、進捗報告に加えて、アーカイブズの性格といった観点から、科学史研究における日本の物理学者資料の活用可能性についての論点も提示する。

14:00 ~ 14:20 松田 慎三郎（（公財）明倫学舎）

『ゼロCO₂排出をめぐる課題』

概要：2050年にCO₂排出ゼロを達成するとしたら、どのような世界になるかを量的に検討した。経産省などで検討しているエネルギー基本計画では到底達成不可能とみられる。
一方、ICPPを中心に世界中で突き進んでいる地球温暖化の主要原因がCO₂であるとのキャンペーンは科学的に正しいかについての議論はいまだに未解決のままである。

14:20 ~ 15:30 **総合討論：**

[終了]

バス：NIFS 15:54 発 多治見駅 16:13 着

バス：NIFS 16:54 発 多治見駅 17:16 着

バス：NIFS 17:25 発 多治見駅 17:45 着
